

岸田政権と「新しい戦前」

『現代の理論』34号で、金子勝さんが表題について語っているので抜粋して紹介。「新しい資本主義」が「新しい戦前」になっているので、結果的にがらとアベノミクスを継続する道にならざるを得ない。大規模金融緩和というアベノミクスの金融経済政策だけではなく、政治の歴史修正主義もひどくなっている。安倍よりたちが悪い。安倍は全く許しがたいけれど、彼は歴史修正主義を自分の「思想」として語っているので、自分で意図的に修正していたし、強引にそれで突破しようとしてきた。それに対して岸田はシレッと歴史修正主義、新しい戦前を平然とやっている。自分が何か悪いことをしているとの感覚もない。だから首相になるために当然のことをやっているだけだということだろう。これが世襲政治家で、普通の人の持っている感覚とは違うのだと思う。

敵基地攻撃能力が明らかに専守防衛に反するというのが過去の答弁だが、岸田はそういうことは完全に棚に上げて、海外派兵をしないことが専守防衛だと言い換えてしまう。安倍は明らかに意識的にやった。岸田は「まあこんな嘘は別になんていうことはない」とばかりに、過去の国会答弁や国の政策の根本を平気で変えている。これは許しがたい。政治家としては存在そのものが許されないというくらいに、国会や民主主義を破壊している。原発は60年越えても使うとか、新設をもするというのも、明らかに原発事故以降の政府のスタンスを180度変えているのに、「原発は可能な限り低減するという政府の方針に変わりはない」と言い続ける。追及できない野党の問題もあるにせよ(野党は、立憲、共産以外はごくわずかに残っている社民くらいで、維新はもう自民党より右で、国民民主はそれについていって「大政翼賛会」を作り始めている)、完全に国の形が溶けてしまった。それが今の状態だ。

加えて、アベノミクスでさらに問題なのは、なし崩しで防衛費を倍増させてきたことだ。安倍政権になって2013年の後年度負担が3.2兆円だったのが、2022年には5.9兆円と倍増していた。ずるずると防衛費を倍増させ、すでにGDP1%を維持できなくなっていた。台湾有事は後付けにすぎない。財源も国会のチェックが効かない予備費が膨大に積み重なっている。年12兆円になったこともあるが、2020~22年度に単純合計で30兆円を超えている。そういう状態でそこから基金を176(2021年度)も作って、27基金はほとんど使っていない。

23年度予算でコロナを5類にしながらか、予備費5兆円をまた通した。結局これらを膨大に余らせて、決算剰余金や歳出改革にして防衛費に回すことになる。表向き防衛費は増税を避けながら、事実上赤字国債でやっていくことになる。これは基本的に戦時中と同じだ。すなわち臨時軍事費特別会計で国会のチェックのないまま防衛費をどんどん拡大したのと基本的に変わらない。戦争の反省として作った憲法では、憲法9条の問題だけでなく、財政民主主義も壊されようとしている。

(2023年5月11日)